

日本ウマ科学会 2022年度 第2回常任理事会議事録

日 時：2022年3月7日（月）13：30～15：30

場 所：オンライン開催（ZOOM Web会議システム）

出席者：青木 修 会長

田谷 一善 副会長

和田 信也 副会長

高橋 敏之 庶務担当常任理事

半澤 恵 会計担当常任理事

楠瀬 良 編集担当常任理事

近藤 高志 学術担当常任理事

桑原 正貴 国際担当常任理事

平賀 敦 広報担当常任理事

笠嶋 快周 JRA競走馬総合研究所 所長（オブザーバー）

山中 隆史 JRA競走馬総合研究所 企画調整室長（オブザーバー）

小野 圭一 事務局長

欠席者：佐々木 直樹 臨床担当常任理事

議題：

はじめに 青木 会長 挨拶

1. 役員の変更について（高橋・事務局）
2. 第34回学術集会開催報告（近藤・事務局）
3. 2022年活動計画について（事務局）
4. 第35回学術集会予定（近藤・事務局）
5. その他
 - 1) 第2回認定馬臨床獣医師認定試験について（佐々木・事務局）
 - 2) 臨床委員会企画の準備状況（佐々木・事務局）
 - 3) 編集委員会の議事概要（口頭報告）（楠瀬）
 - 4) ICEEP12の開催に立候補ための国内委員会の立ち上げについて（高橋）
 - 5) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について（近藤）

議事概要：

議題 1. 役員の変更について

- 青木会長のあいさつに続き、事務局から和田副会長、高橋庶務担当常任理事の JRA における定期人事異動に伴う退任と、それに伴い笠嶋快周 JRA 競走馬総合研究所長の新副会長就任、山中隆史 JRA 競走馬総合研究所 企画調整室長の新庶務担当常任理事への就任の提案があり一同承認。
- 理事、評議員については、人事異動に伴い、吉成公伸理事、松田芳和評議員が退任し、伊藤幹 JRA 馬事部長が理事に、古角博 JRA 美浦 TC 競走馬診療所長が評議員に着任することを説明し承認。
- 各種委員会のうち学術委員会において、太田稔委員が退任し、補充なし。臨床委員会は定期人事異動に伴い、栗本慎二郎委員、眞下聖吾委員、高橋敏之委員が退任し、村中雅則 JRA 栗東 TC 診療課長、吉原英留 JRA 美浦 TC 診療課長、黒田泰輔 JRA 総研研究役が委員就任となった。また、石川真悟大阪公立大学准教授も同時に委員に参加。

議題 2. 第 33 回学術集会開催報告

- 近藤学術担当常任理事が、12 月 1 日(水)～12 月 10 日(金)にホームページの特設サイトでオンデマンド開催された学術集会の内容を資料に基づき報告。
- 事務局が特設サイトの閲覧数ならびに経費概算を報告。その中で、閲覧数については昨年より微増していること、経費については撮影費の増加はあったものの昨年より経費減で実施されたことを報告。しかしながら、2 年間で繰越金が減少している点も報告。
- 半澤会計担当常任理事より、次年度以降は、オンデマンド開催であっても学術集会参加費を徴収すべきであることを提案。一同了承。
- 事務局から集合型で行う場合も学術集会の会費の金額について、撮影を加える場合増額の検討の必要性を提案。次回までに概算を作成することに。

議題 3. 2022 年活動計画について

- 2022 年の活動計画について事務局が説明した。次回第 3 回常任理事会の開催については、7 月中旬に開催の方向。そこで、第 35 回の開催の方針を最終決定。細かい決定事項について議題あれば、メールにて確認。

議題 4. 第 35 回学術集会予定

- 事務局から第 35 回学術集会の開催方法とその検討項目を説明。
- 青木会長からキャンセル料の発生しない期限の質問。事務局より 4 月 1 日が期限と回答。近藤学術担当理事より、このことについては昨年と同じように

- キャンセル料が発生するとしても共催の方向で進めていくしかないと解説。
- 近藤学術担当理事より、ここ2年は学会参加費なしで実施しているが、海外からの招聘をするとなると企業展示は実施する方向で進めていくしかないという意見。
 - また、シンポジウムについては学術委員から意見をまとめているところだが、今のところアイデアがない。シンポジウムがないとすると、臨床委員会の海外の先生の講演会と症例検討会的なものしかない。
 - 講師については招聘しても旅費が発生し、オンデマンドにしても撮影費がかかる。いずれにしても一般予算の中から捻出する必要がある。企業展示を実施してある程度収入が必要。
 - 青木会長より、現在提案があった方向性で進めていくしかない。担当者には負担をかけるが進めてほしいという結論。
 - 学術集会の会費については、昨今の物価上昇などによる費用面を検討のうえ、必要があれば価格改定が必要。その場合、第3回で提案。

議題5 その他

1) 第2回認定馬臨床獣医師認定試験について

- 佐々木臨床担当常任理事より、2021年11月22日(月)にKFC Hall & Roomsにて6名が受験し、すべて合格。2022年1月6日までに合格の通知およびホームページの名簿の更新を実施したという報告を受けたと事務局より説明。併せて、第3回の試験についても準備に取り掛かっているということも報告。

2) 臨床委員会企画の準備状況

- 佐々木臨床担当常任理事より伝言を受けた事務局が説明。第35回学術集会には奨励賞の講演をした黒田氏がフランスで海外留学中に師事していたTourtan教授を予定。同氏はPK/PD理論に精通しているが、ドーピングの専門家でもある。2日目に講演を実施予定。今回、JBBA主催の北海道での研修会は実施しない方向。その他の国内での講演については調整中。オンデマンドになった場合も対応可能。第36回は謝先生の予定。第37回は生産地のリクエストで外科の先生で調整中。
- 笠嶋新副会長より、生産地からのリクエストで特別招聘しても、招聘した獣医師がアテンドできずJRAの職員がアテンドしているのが実態。以前庶務担当常任理事の際に、関東でアテンドする際には大村主幹委員、生産地では佐藤主幹委員が帯同する形態にした。現在、主幹委員2名はアテンドする立場、体制にはない。臨床委員会の中で話し合っ、再度アテンドできる体制を再構築をしていただきたいという提案。第35回については、黒田委員が帯同

できるので問題はない。

3) 編集委員会の議事概要（口頭報告）

- 楠瀬編集担当常任理事より口頭でメール会議の議事概要説明。昨年12月ヒポファイルの編集委員会を実施。提案は2つ。1つはヒポファイルのオープン化。高橋庶務担当常任理事より、即時オープンには会員のメリットがなくなる。最低でも1年など期間をおいて公開すべきで、会員の立場としては公開すべきであると思わない。楠瀬編集担当常任理事より、公開を提案している委員からは馬事普及の側面から時間をおいても公開することに意義はあるのではないかという意見。近藤学術担当常任理事からは、獣医系以外の会員は学術集会への参加は少ない。ヒポファイルが唯一の会員を続ける目的であり、オープンにされることは数年遅れであっても多くの文系会員、乗馬会員、自然科学系の会員にとって会員メリットがないという意見。平賀広報担当常任理事より、どのような立場の委員からオープン化の話が出ているのかという質問。楠瀬編集担当常任理事より、馬事文化の研究者や馬事普及に深くかかわっている人であるという回答。青木会長より、即時性のある公開は会員メリットがないので、メリットを損なわない状況下で公開をするという手段を第3回までに追加検討。
- もう1つは、インタビュー記事の取材に対する交通費の支出の件。予算計上していないので次年度以降でもよいが支出可能か。小野事務局長より、今回の支出が始まると際限がなくなる恐れとコメント。平賀広報担当常任理事より、知識はあるが文章を書くのが苦手な人がいる。インタビュー形式で行うメリットはある。楠瀬編集担当理事より、新幹線を利用して取材に行くような場合も想定される。すべてボランティアというわけにはいかない。年間10万円程度と考えているが、年間総額を決めておいて超えない範囲で支出できないか。山中新庶務担当常任理事より、年初に予算案を組んで、事前に伺いを立てて承認されればよいのではないかと。笠嶋副会長より、これからの時代必要な経費。際限があるわけではないが、楠瀬編集担当常任理事で承認し、その後事務局で精査するのであれば問題ないし、積極的に実施すべきと思料。事務局としては、10万円程度の支出は問題ない。あくまで交通費の支出のみとしてよく精査して支出していただきたいという意見。青木会長より、予算と支出回数など使用方針を事務局と相談し、第3回で再提案することとし追加検討。
- 田谷副会長より、以前より委員より投稿形式をアイペックからの手作業ではなく、システム化できないかという提案。予算に余裕があれば提案予定であったが、ここ数年の予算状態から費用面で難しいと思料。

4) IGEEP12の開催に立候補ための国内委員会の立ち上げについて

- 高橋庶務担当理事より、準備状況を説明。今回の常任理事会で高橋常任担当理事は業務都合で常任理事を解任となったが、国際委員会の ICEEP 担当委員として今後とも常任理事会と情報共有する体制を保持。立候補に向けて、国内委員会を立ち上げる。構成員は青木会長、桑原国際担当常任理事、平賀広報担当常任理事、高橋敏之 ICEEP 国際委員。5月に予定通り共催する形で立候補。JRAの理事長名、日本ウマ科学会青木会長名で招致状を提出予定。新たな委員は立候補承認後に拡大する予定。会場は当初と変わって都市センターホテルに変更。予算に変更はなし。事務局に問い合わせたところほかの都市も立候補の予定はある見込み。
 - 山中新庶務担当理事より 2026年に7~8月に愛知で馬術のアジア大会が開催予定。人的支援を要求される可能性があるが、開催時期がずれており問題ないと思料。
 - 青木会長より、今後、常任理事会で報告する事項があれば、高橋委員に常任理事会でオブザーバー参加していただき、情報共有願いたいと提案。
- 5) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について
- 近藤学術担当常任理事より、昨年受賞対象者がおらず、寂しい限り。常任理事からの推薦を切望。各賞の推薦理由書の締め切りは5月末日であることを伝達。
- 6) その他
- 半澤会計担当常任理事より、オンデマンド開催となった場合2年間は無料で実施したが、本年も実施するのかという提案。3回目となると経費はおおよそわかっているので必要な経費分の開催参加費を徴収してはいかがか。青木会長より、第3回までにその案を作成して次回事務局より提案できるように検討。

(15:30 終了)